

## 2 研究の実際 &gt; (2) 「強み」に関する活動プログラム

## オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (A 中学校 第 3 学年 3 時目)

## ◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、『強み』を生かしていこうとする意欲を高め、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする』を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

## 【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたかを考察します。

## 【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

## 【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

## 【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

## 【⑤ 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったか】

振り返りシートの「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問で、「強み」を生かしていこうとする意欲を高め、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

## ◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

## 【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は90.3%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は6.5%でした(図1)。また、生徒の振り返りシートには、『強み』をプレゼントするのが楽しかった」「自分が思っていることを書いたので、みんなの仲がより深まった」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。一方、「できなかった」と回答した生徒の割合は

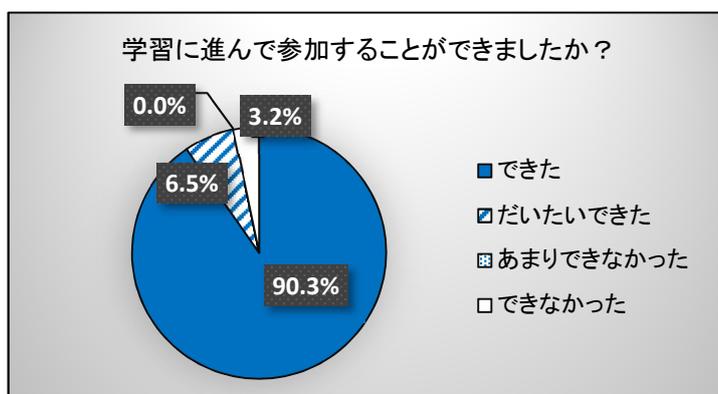


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

「できなかった」と回答した生徒の割合は

3.2%でした（前頁図1）。生徒の振り返りシートに意欲に関する記述は見られませんでした。友達の「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」のワークシートに、「強み」を書くことができていました。今後も、このような生徒が学習に進んで参加できるように、グルーピングや個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

## 【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は87.1%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は12.9%でした（図2）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』を班の人に出してもらって嬉しかった」「友達に『強み』を伝えてもらおうと、すごく自信につながった」という記述が見られました。これらのことから、生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

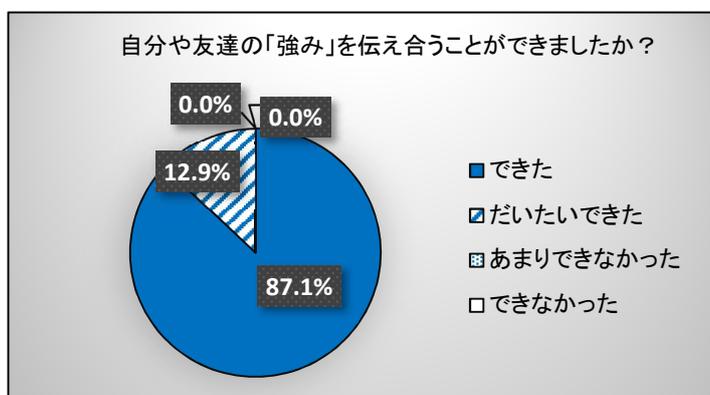


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

## 【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は83.9%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は12.9%でした（図3）。また、生徒の振り返りシートには、「自分らしい『強み』を見付けることができた」「自分では気付かない『強み』を教えてもらい楽しかった」という記述が多く見られました。これらのことから、多くの生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は3.2%でした（図3）。生徒の振り返りシートには自分の「強み」に関する記述は見られませんでした。友達が書いてくれた自分の「強み」を笑顔で眺める様子が見られました。今後、このような生徒の学習効果を高めるために、個別の言葉掛け等を工夫する必要があると考えます。

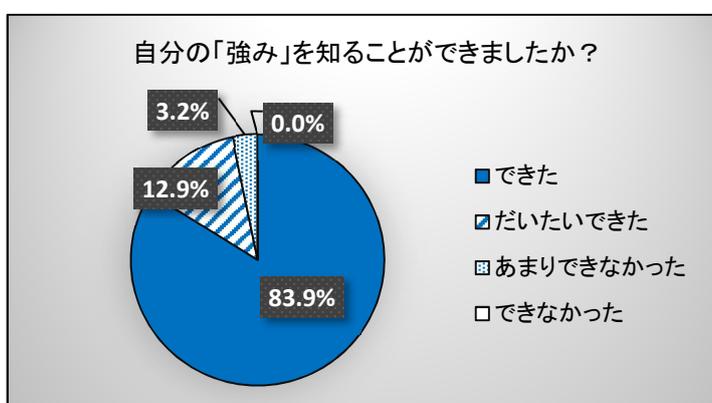


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

## 【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は96.8%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は3.2%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「グループの友達の『強み』を書くことができた」「友達の『強み』を知ることができて嬉しかった」という記述が見られました。これらのことから、生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

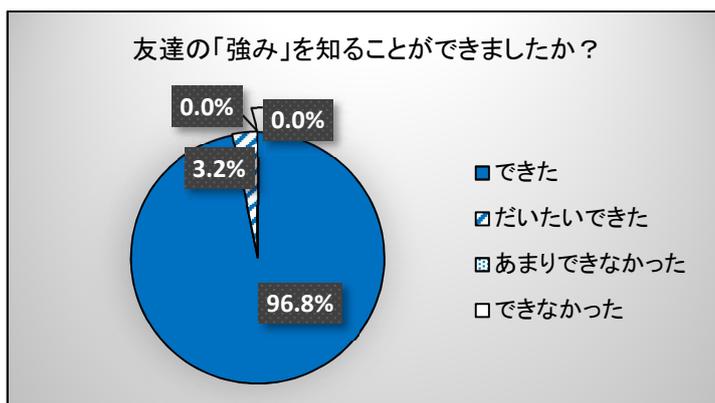


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

## 【⑤ 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったか】

振り返りシートの「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問に対して、「思った」と回答した生徒の割合は87.1%、「だいたい思った」と回答した生徒の割合は12.9%でした（図5）。また、生徒の振り返りシートには、「今日知った自分の『強み』をもって、今後も頑張りたい」「今回学んだ『強み』を生かして、受験などで頑張っていきたいと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、「強み」を生かしていこうとする意欲を高め、自分の「強み」の生かし方を考えることができたと考えます。

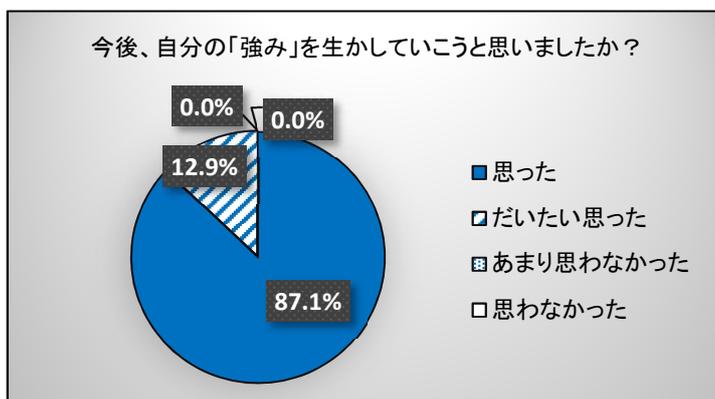


図5 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、3時目の授業において、ほとんどの生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合い、今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったことが分かりました。その中で、「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問に対して、「思った」と回答した生徒の割合が87.1%でした。理由として、「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」の交流活動で自分の「強み」を整理したり、「これがあれば大丈夫！」の交流活動で自分の「強み」を焦点化したりすることにより、自分の「強み」を更に生かしていこうという意識につながったと考えます。今後も、自他のよさを認め合う人間関係を築いていくために、他の教育活動と関連付けた継続的な取組や個別の言葉掛け等が必要であると考えます。

## ◆ 3時間の授業を通じた考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

3時間の授業の振り返りシートに共通する質問項目③「自分の『強み』を知ることができましたか」④「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して「できた」と回答した生徒の割合は、全ての授業で、友達の「強み」の割合が自分の「強み」の割合を上回りました。その理由として、中学生の発達の段階における自己肯定感の低さの影響もあり、友達の「強み」を見付けることの方が自分の「強み」を見付けることよりも容易だったということが考えられます。また、③「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して「できた」と回答した生徒の割合が授業が進むにつれて上がったのに対し、④「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して「できた」と回答した生徒の割合は、2時目で下がり、3時

目で再び上がるという結果になりました。友達の「強み」の割合が下がった理由として、「Step Up Webbing～解決への一歩～」の交流活動において、友達の「強み」を生かしたアイデアや解決策を書くことに難しさを感じたことにより、生徒は友達の「強み」を知ることができたと実感するまでには至らなかったのではないかと考えます。加えて、シェアリングの時間を十分に確保することができなかったことも自他の「強み」に対する理解に影響したのではないかと考えます。3時目で2つの質問共に数値が上がった理由として、ウェビングの活動に慣れてきたことが考えられます。友達の個性や性格を肯定的に捉え、嬉しそうな表情で友達のワークシートに「強み」を書き足す授業中の様子から、生徒がウェビングの活動を楽しみ、友達の「強み」を見付ける喜びを感じてきたからだと考えられます。加えて、大きく広がった自他の「強み」を視覚化することで、自分の「強み」についての意識が高まり、どちらの質問に対しても「できた」と回答した生徒の割合が大きく上がったと考えます。

以上のことから、「強み」に着目した交流活動を繰り返し行う『強み』に関する活動プログラムは、生徒が互いに自他のよさを認め合うことに有効であったと考えます。

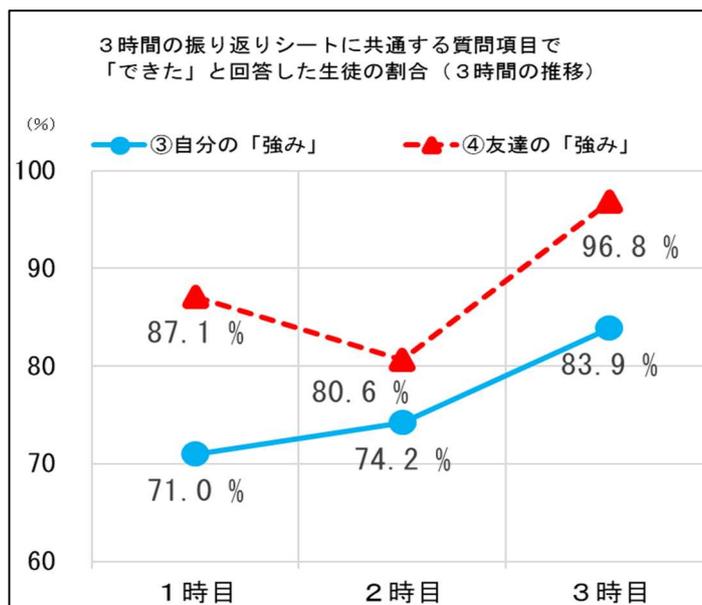


図6 共通する質問項目（③、④）についてのアンケート結果（振り返りシートより）

## 2 研究の実際 &gt; (2) 「強み」に関する活動プログラム

## オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (B中学校 第3学年 3時目)

## ◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、『強み』を生かしていこうとする意欲を高め、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする』を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

## 【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたかを考察します。

## 【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

## 【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

## 【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

## 【⑤ 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったか】

振り返りシートの「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問で、「強み」を生かしていこうとする意欲を高め、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

## ◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

## 【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は86.1%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は13.9%でした（図1）。また、生徒の振り返りシートには、「友達のことを書くのは、その人を元気付ける感じがして楽しかった」「今まで自分の『強み』について考える機会がなかったので、とても良い学習だった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生か

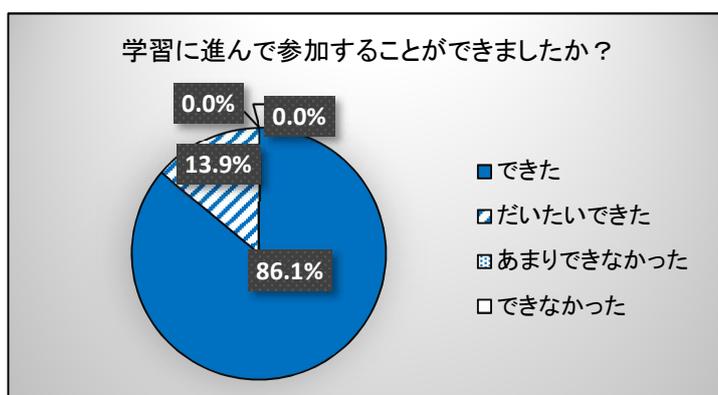


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

し方を考えようとしたりしたと考えます。

## 【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は 88.9%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は 11.1%でした（図 2）。また、生徒の振り返りシートには、「最初に自分が書いたウェビングは、少ししか広がっていなかった。でも、自分のところに戻ってきたときにはいっぱい書いてあってとても嬉しかった」

「今まで 3 回授業で取り組んできて、初めは自分のことを書くのが少し恥ずかしかったけど、自分では分からない『強み』をみんなが教えてくれたり、友達の『強み』を探したりしていくうちにだんだん楽しくなった」という記述が複数見られました。これらのことから、生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

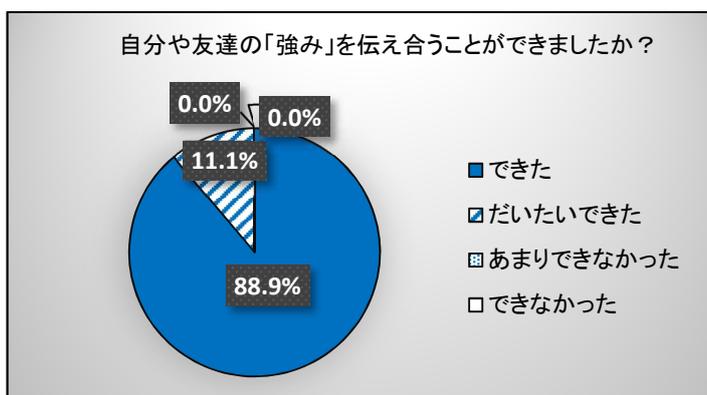


図 2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

「今まで 3 回授業で取り組んできて、初めは自分のことを書くのが少し恥ずかしかったけど、自分では分からない『強み』をみんなが教えてくれたり、友達の『強み』を探したりしていくうちにだんだん楽しくなった」という記述が複数見られました。これらのことから、生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

## 【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は 94.4%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は 5.6%でした（図 3）。また、生徒の振り返りシートには、「前よりも自分の『強み』が増えていたのでうれしかった」「自分では気付かない『強み』を教えてもらい楽しかった。『強み』をもっと増やし、挑戦したい」「自分の『強み』についての 3 回の授業で自分の『強み』をしっかりと見つことができたし、伝えることができた。この『強み』を今後

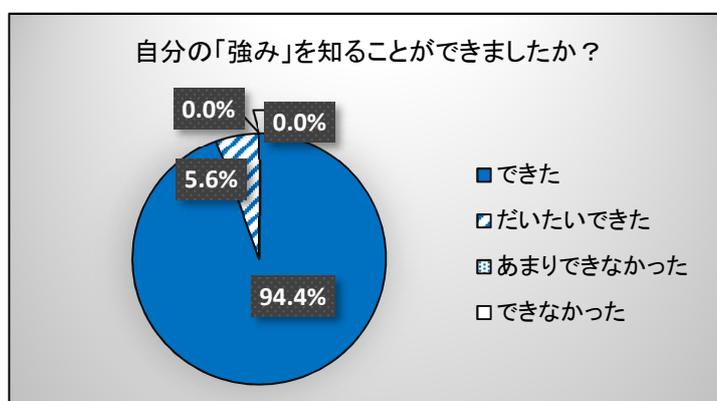


図 3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

生かして、自分の自信につなげていきたいと思う」という記述が複数見られました。これらのことから、生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

## 【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は100%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「友達の『強み』をたくさん知れて良かった」「友達の『強み』を見つけて書いていくのは、自分の『強み』を見付けるより楽しかった」「友達の『強み』を見つけていくとき、普段から人をしっかりと見ておくことが大事なのかなと思った」という記述が複数見られました。これらのことから、生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

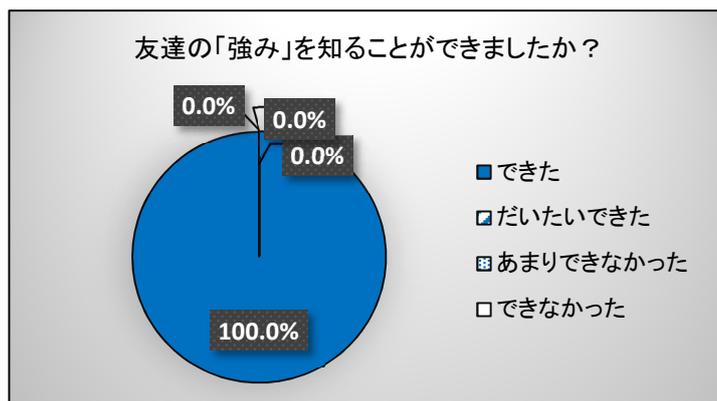


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

## 【⑤ 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったか】

振り返りシートの「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」の質問に対して、「思った」と回答した生徒の割合は83.3%、「だいたい思った」と回答した生徒の割合は16.7%でした（図5）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』をたくさん知ることができたので、これからそれらを生かしていこうと思った」「今後自分の『強み』を生かして頑張っていこうと思った」「選んだ3つの『強み』だけでなく、他の『強み』も生かしていきたいと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」や「これがあれば大丈夫！」の交流活動等を通して、「強み」を生かしていこうとする意欲を高め、自分の「強み」の生かし方を考えることができたと考えます。

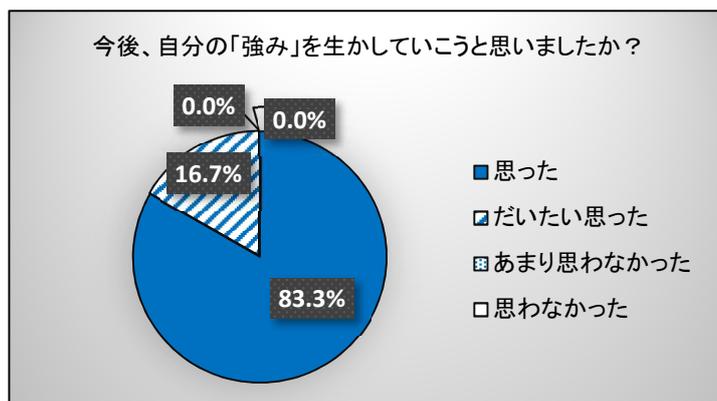
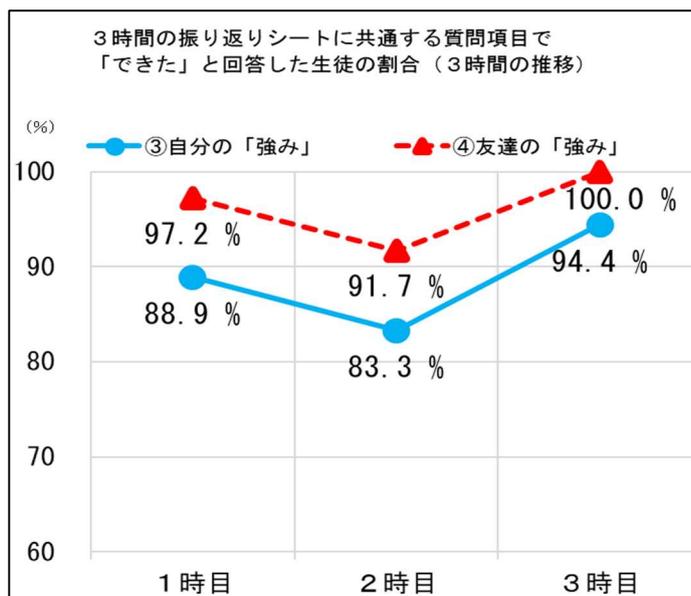


図5 今後、自分の「強み」を生かしていこうと思っただけについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、3時目の授業において、生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合い、今後、自分の「強み」を生かしていこうと思ったことが分かりました。また、「今後、自分の『強み』を生かしていこうと思いましたが」という質問に対して、「思った」と回答した生徒の割合が83.3%でした。その理由として、「Treasure Webbing ～『強み』の宝箱～」の交流活動で自分の「強み」を整理したり、「これがあれば大丈夫！」の交流活動で自分の「強み」を焦点化したりすることにより、自分の「強み」を更に生かしていこうとすることができたと考えます。今後も、自他のよさを認め合う人間関係を築いていくために、他の教育活動と関連付けた継続的な取組や個別の言葉掛け等が必要であると

## ◆ 3時間の授業を通じた考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

3時間の授業の振り返りシートに共通する質問項目③「自分の『強み』を知ることができましたか」、④「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して「できた」と回答した生徒の割合は、全ての授業で友達の「強み」の割合が自分の「強み」の割合を上回りました。その理由として、中学生の発達の段階における自己肯定感の低さの影響もあり、3時間の授業を通して、友達の「強み」を見付ける方が自分の「強み」を見付けることより容易だったのではないかと考えます。また、2つの質問共に、1時目に比べて2時目の数値が下がり、3時目で数値が上がるという傾向が見られました。2時目で下がった理由として、2時



目で伝え合った「強み」が1時目の「強み」と同じであったことや、自分が思う「強み」と友達が思う「強み」が同じであったために、新しい「強み」を知ることができたと実感するまでには至らなかったのではないかと考えます。加えて、シェアリングの時間を十分に確保することができなかったことも、自他の「強み」に対する理解に影響したのではないかと考えます。3時目で再び数値が上がったのは、1、2時目で見付けた「強み」をワークシートに書き出すことにより、視覚的に「強み」を実感することができたこと、3時間を通してウェビングの活動にも慣れてきたため、ワークシート上のウェビングに広がりが出てきたこと、さらに、友達のワークシートに多くの「強み」を書き足したり、大きく広がった自分の「強み」を焦点化したりすることができたこと等により、どちらの質問に対しても「できた」と回答した生徒の割合が上がったと考えます。

以上のことから、「強み」に着目した交流活動を繰り返し行う『『強み』に関する活動プログラム』は、生徒が互いに自他のよさを認め合うことに有効であったと考えます。